

日本図書館文化史研究会
2008年度第3回研究例会のご案内

2008年度第3回の研究例会は、はこだて外国人居留地研究会との共催で、下記のように開催します。今回の例会は、初めての北海道地区での実施となりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 時 2009年3月20日(金・祝) 14時～16時50分
 - 場 所 函館市中央図書館
函館市五稜郭町26番1号
<http://www.lib-hkd.jp/>
 - 交 通 函館バス「中央図書館前」下車後すぐ
市電五稜郭公園前電停下車、徒歩15分
<http://www.lib-hkd.jp/shisetsu/center.html>
 - 参加費 1,000円
 - 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込ください。
 - 申込先: 〒321-3295 宇都宮市竹下町908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール: oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス: 028-670-3671
 - 申込締切 3月10日(必着) でお申し込みします。
 - プログラム
- 3月20日**
- 13:30 受付開始
 - 14:00 開会挨拶
 - 14:10-14:40 発表1 兔内勇津流
 - 14:50-15:20 発表2 藤島 隆
 - 15:30-16:00 発表3 谷 暎子
 - 16:10-16:50 「岡田健蔵を語る」
岡田弘子氏へのインタビュー
司 会: 梅澤幸平(滋賀県審議員)
聞き手: 中山公子(函館市中央図書館長)
- ※ 岡田氏のご体調などによって、中止となる場合があります。あらかじめご承知おきください。

3月21日

- 10:00-12:00 オプションツアー(函館市図書館旧館見学会)

発表要旨

【発表 1】

- 発表者

兔内勇津流（北海道大学スラブ研究センター）

- 発表題名

イワン・マホフ「ロシアのいろは」をめぐって

- 発表要旨

幕末の 1861 年にイワン・マホフが箱館で製作した、ロシア語初歩の小冊子「ロシアのいろは」は、刊行年が明示された北海道最初の出版物である。ロシア領事館付き司祭に伴って来箱したマホフがこれを製作した状況について、当時の『海事論集』に掲載された記事等を材料に検討する。

【発表 2】

- 発表者

藤島 隆（北海学園大学）

- 発表題名

岡田健蔵と二人の図書館員

- 発表要旨

はじめに、北海道の図書館史を調べるようになった経緯、ならびに岡田健蔵との出会いからお話する。

岡田健蔵の生涯については、これまでいくつか紹介されたものがあるが、本発表では坂本龍三先生の著書『岡田健蔵伝』をもとに、私なりに岡田の業績を検証することにした。同時に、岡田を支えた二人の図書館員、佐藤真と大垣友雄についても紹介する。

【発表 3】

- 発表者

谷 暎子（日本児童文学学会北海道支部）

- 発表題名

函館図書館（私立、市立）の児童サービスと「罹災児童同情雑誌・図書」

- 発表要旨

私立函館図書館は、明治 42（1909）年の開設当初から児童サービスを行い、昭和 3（1928）年市立函館図書館にも引き継がれていた。しかし、函館図書館児童サービスについては、これまで調査・研究されてこなかった。

本発表では昭和 9 年の函館大火の際、岡田健蔵の呼びかけに応じて全国各地から贈られた「罹災児童同情雑誌・図書」を中心に函館図書館の児童サービスについて考察したい。

※ 宿泊などの手配は、各自お願いします。

※ オプションツアーの詳細については、参加申込者に追ってご連絡します。